

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200028		
法人名	特定非営利活動法人 だいこんの花		
事業所名	NPOグループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地1		
自己評価作成日	平成26年8月26日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&li_gyosyoCd=2190200028-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念に基づき本人を尊重し毎日を穏やかに過ごして頂けるように支援している。
 ・本人の希望を取り入れながら、1日の生活リズム、活動と休息のメリハリをつけるよう、ラジオ体操・掃除・散歩・外出を行っている。また、毎日、午後から1時間のレクリエーションを行っている。・管理者、ケアマネ以外の職員にも外部、内部研修に参加してもらい自己研鑽している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員や管理者は家庭的でその人らしく暮らすことができるよう努めている。過剰な介護はせず、できることは行ってもらいできない部分を介助し自立支援につなげている。利用者の言動に耳を傾け「何を訴えているか?」をくみ取っている。介護経験の中から得た知識や成功例・研修で得た新しい介護方法を話し合い共有しながらケアに活かしている。医師や看護師と連携がとれ医療の必要時にも対応でき、利用者や家族の安心に繋がっている。また、職員は、行事をいかに利用者を楽しんでもらうことができるか工夫を凝らしている。夏祭りには地域の方も招待しクリスマスには一年の感謝をこめ豪華な手作りの料理を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・大きな行事(夏祭り、クリスマス会)には地域の方を招待している。また、夏祭りには準備にも参加していただき一緒に作り上げている。	利用者一人ひとりの思いを汲み取り、地域で穏やかな暮らしを継続できるようミーティング時にケアを振り返り、理念を再確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・陽気が気持ち良い季節には、毎日ホーム周辺を散歩して近所の方とあいさつを交わしている。	農家のハウスで野菜の収穫を楽しんだり、保育園や小中学校の文化祭や運動会に出かけたりしている。富野ふれあい祭りには、入居者の作品を出展している。事業所の夏祭りなどの行事には地域の方たちの参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・キャラバンメイトとしての活動はここ数年行われていない。(話は出ているので活動していきたい)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では近況報告、今後の予定等を報告している。また、助言等を業務に反映できるようにしている。	運営推進会議での意見や要望は、全職員で検討をして、対応や対策をとっている。熱中症や食中毒についての注意、避難経路の安全性の確認や電動ベッドの事故防止などの意見や要望を支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・隔月の運営推進会議には市の担当職員がさんかしている。市のボランティア行事等の参加もある。	市の居宅連絡会の事務局になっている。連絡する機会も多く、担当者と気軽に相談や報告を行っている。福祉課職員の掃除や草取りのボランティア訪問の際、事業所の実情を見てもらい意見や感想を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間は玄関の施錠をしているが、日中は施錠をせず、いつでも出入りできるようにしている。散歩を希望される方には同行している。	利用者の思いに寄り添う個別対応のケアを心がけている。外出願望や表出出来ない思いの苛立ちへの言葉かけや対応を話し合い、言動を制止したりせず拘束しないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティング等で職員に伝え、事業所内で虐待が発生しないよう普段から努めている。		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者は研修を受講しているが、現在は対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に家族と話し合い、契約時に書面にて説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置しているが利用する方はない。運営推進会議で聞かれた意見、要望は職員に伝えている。面会時に職員に気軽に話を出来る家族もあり、職員に伝え反映している。	家族の来訪時や運営推進会議での意見は、その都度かミーティング時に話し合い反映している。職員の利用者に対する口調が気になったとの苦情に話し方を見直している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングで意見を聞き、話し合い反映している。提案、意見がある時は都度そうだんをしている。	オムツの当て方や排泄時の誘導方法について提案があり実践した。そのことにより家族の介護費用の軽減となった。職員の休日のシフト替えにも柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・外部研修はなどは会社負担で積極的に参加してもらい意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・全職員が内外研修に積極的に参加するように配慮している。また、外部研修は勤務として参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協議会に加入しているが他のGHとの交流はない。関市居宅介護連絡会に参加し他の施設との交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の生活歴などを含め心身の状態、希望を家族・本人から聞き取りホームでの生活を安心して送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人の生活歴などを含め心身の状態、希望を家族・本人から聞き取りホームでの生活を安心して送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・今までの生活とのギャップがないよう、安心して暮らして頂ける配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共に生活をする中で、入居者は人生の先輩である事を意識して尊厳を守り「介護している」のではなく「介護させて頂く」の気持ちで接している。また、掃除、調理にも参加していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時、電話、通信等で本人の状況を伝え面会時にはゆっくり過ごして頂いている。家族との外出時は話を聞き本人の様子を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族以外の親戚、友人の面会があるのは限られた入居者である。家族との外出の機会は継続できるよう努めている。ドライブなどの外出では思い出の場所に行ったりしている。	利用者、家族の話や写真等から友人や馴染みの場所を把握し、写真の喫茶店へ出かけたり、ドライブに出かける時は勤めていた会社や自宅の近くを通るなど利用者の思い出の場所や人との関係の持続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士で談話する姿も見られるが、特定の入居者が孤立しないよう職員が間に入ったり、話題を提供することで皆との関わりが持てるように支援している。また、無理に協調させることのないよう個人に合わせることも大事にしている。		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・体調の悪化により入院し、退院後の相談等をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・意思表示できる方の希望・要望は本人との会話から把握している。困難な方は表情を見ながら検討している。	声掛けをして反応を見て思いをくみ取っている。表情を見ながら全て声掛けをして介助、支援をしている。耳が遠い方には理解できたか確認してから行動に移している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に家族に生活歴などを尋ね、アセスメントし職員と共有し、コミュニケーションに活かしている。入居後も家族との談話の中から情報を得ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・記録や申し送り、また本人の状態に合わせて入浴、休息、活動をすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族からは面会時に話を聞いたり、職員間では日常的に出てきた課題をミーティング時に話し合い、介護計画を作成している。	家族の希望を面会時や電話で確認している。月1回のモニタリングを行いミーティング時に話し合っているが、会議記録が整備されていない。	家族、職員と計画について話し合っているが、話し合った内容を会議録として作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族の要望に添うことが出来るよう努めている。(外出、帰宅、受診)		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の舞踊グループや手品の方たちに行事での慰問を依頼することで、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医を希望される方は継続し、受診の介助が出来ない方には訪問診療を紹介している。	かかりつけ医を受診していた利用者も家族の都合で協力医の訪問診療を受けている。受診結果は看護師が家族へ連絡するとともに記録に残し職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・小さな変化・気づきでも記録や口頭で看護師に伝え、受診必要の有無を判断を看護師が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時から退院まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加し退院後に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時の説明では、当ホームは看取りを行っていないことを伝えてあるが、重度化してきた際には今後どのように対応していくかなど家族の希望を取り入れるようにしている。訪問診療の主治医との連携も強化している。	利用者が重度化した時や変化時はその都度家族と話し合い対応を決めている。利用者や家族の希望に沿って協力医、看護師と連携し、出来る限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急車要請の手順は確認している。怪我の際は看護師の支持を仰ぎ管理者と連携をし、緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすい電話のところに貼り連携の取りやすいように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、昼間想定・夜間想定避難訓練を行っている。	夜間想定訓練は職員一人で利用者全員の避難を行い、他の職員は、その状況を見ながら問題点や課題を見つけて対策を話し合っている。災害時、近隣へ協力の依頼はしているが訓練への参加は無い。	災害時、職員だけの誘導では限界があり、地域の協力者が必要である。協力の依頼にとどまらず訓練への参加依頼が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者は人生の先輩で敬って援助すると理解しているが、言葉かけに感情が入っている時があるのでお互いに注意し合えるようにしたい。	利用者の趣味や能力を把握して誇りある暮らしの持続に努めている。利用者の言葉に耳を傾け、馴れ合いにならない温かい言葉遣いを心がけている。上から目線や厳しい言葉にはその場やミーティングで注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・どんな時でも言葉かけを重要にし入居者様の意見を聞き援助にあたるように努める。無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・毎日、その日の暮らし方を尋ねることはしていないが、それぞれのペースなどに合わせた生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴の準備をする際は、本人にどれが良いか聞いたりしている。入浴後の整容時はドライヤーを使いセットしたり髭剃りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立を作る際は、季節の食材や要望を取り入れるようにしている。食材を切ったり、食後の片付けなどには時々参加してもらっている。食事は毎食楽しまれている。	利用者と一緒に近隣の農家に野菜の収穫に行ったり、下ごしらえや後片付け等を行ったりしている。利用者と楽しく食事ができるよう食卓を囲み、利用者の様子を見ながら会話や介助に心を配っている。おやつや行事食を手作りし利用者の好みに応えている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立を作る際は、肉・魚・野菜のバランスを考慮している。また、個々の状態に合わせて食べやすいように工夫している。水分は決まった時間以外にも、散歩後や希望があった時などは柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケア介助、1日1回の義歯消毒、週1回の歯科クリニックの訪問診療による口腔ケアを行っている。		

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表をつけ、誘導が必要な入居者は声掛けしトイレにて排泄できるよう介助している。	利用者の心身の状態に合わせ、紙パンツ、オムツ、パッド等を使用している。日中はトイレ誘導している。夜間は、利用者が良眠しているときは無理に起こさず、起きる気配がある時は、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘が認知症の方を不穏にさせることを理解し、自然排便を促すよう飲み物などを工夫している。また、便秘が3日以上続かないよう座薬等でも調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一日おき、午前中の中入浴を行っている。本人が希望しない時などは強要はしていない。入浴中はゆっくり、本人のペースで行っている。	利用者の心身の状態に合わせ重度の方は2～3人の介助で入浴支援を行っている。話し好きな方には昔の話をするなど気をつけながら見守っている。足浴とシャワー浴の方もいるが季節に応じた湯量にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は昼食後の昼寝など、適度な休息を必要方には促している。また、夕方以降は夜間の安眠に繋がるよう興奮しないよう、穏やかに過ごせるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人記録に薬剤情報を載せている。変更があった時には都度記録・申し送り・連絡帳でつたえている。調整中の薬の場合は、その時の様子などを別紙に記録し主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除、炊事などの参加を日課にし、役割をもってもらっている。また、午後からはレク・外出・ドライブ・カラオケ教室・絵手紙教室など集団・個人での楽しみごとを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩を希望する方にはその都度対応している。季節を感じる外出をレクで計画している。	週に2～3回利用者の希望に合わせて外出の支援をしている。旅行や飲食店の広告を見て行きたい希望の場所や意見が出ると、個別や少人数で出かけている。また毎月季節に応じ花見や祭りなどに出かけている。	

NPOグループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族に紛失の責任は取れない旨を了承していただき、本人が少額を持っている方もある。欲しいものがあれば預かっている小遣いで購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・遠方に住む知人に電話をしたくなった入居者には、代わりに電話をかけ受話器を渡しゆっくりはなしてもらっている。会話が通じなくても「電話を掛けた」と笑顔がみられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・廊下には共同作品で季節の壁画を展示し、居室、リビングにはカレンダーをかけている。座る位置によって日当たり、風当り、明るさ、暑さ、寒さが違うため対応が難しいこともある。テレビの音、職員の声などが騒音にならないよう配慮している。	廊下やリビングに手作り作品や行事の様子を写した写真を飾っている。家族から利用者との会話が弾むと好評である。利用者は、ゆったりとしたソファに腰かけ、時代劇や相撲等の好みのテレビ番組を見ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングソファでは決まった入居者が「自分の指定席」のように座ることがあり、他の人が座っていると不機嫌になったり、その人をどかさそうとすることもあるので説明し、みんなで気持ち良く座る事が出来るようにしているがなかなか難しい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、本人の使い慣れたものがあれば持参してください、と話はするが新しいものを購入し入居する方が多い。	各々の洋服をハンガーにかけたり、日本地図を壁に貼り全国を飛び歩いた時代を懐かしんでいる利用者がいる。又、パソコンやプリンターを置き書類を作る利用者がいるなど、本人にとって過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室入口には表札を貼ってあるが、剥がれてしまったり、認知することが出来ない事もある。		